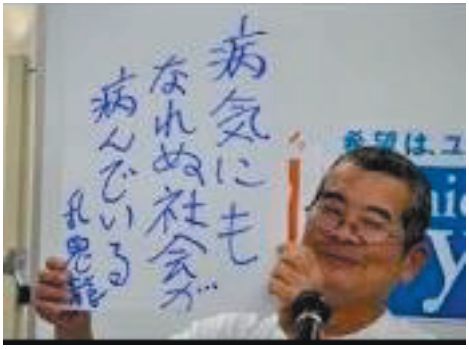
「和」川柳社 6月会報 No.693

定例会 二〇二〇年六月二五日（木）

乱鬼龍さん ラジオに登場



東京に「レイバーネット」という「労働者の労働者のためのネット」がある。時々、討論会などを企画し実況中継している。先日、このネットの「あるくラジオ」に乱 鬼龍さんが登場。ムシロに川柳を書いて日曜には経産省前のテントで訴える。そうした川柳生活を語る。6頁に紹介。

ネットでは、7月15日(水)は「水道民営化」の討論会を実況する。

皆んなで選んだ 今月の秀句

報恩の行脚現金配り旅
周 立東爺

同族に国境がある世界地図
小山 広助

新種モリカケザクラに象徴される安倍政権の腐敗が止まらない。札束を配る古典的選挙違反の議員は安倍総理からの恩に報いたのだ。世界を見るとコロナ禍の中、大国に引かれた国境線で同族が血を流す不幸を見る。（周）

◆目次

川柳互選課題吟「報」……2
自由吟……3
自選句・おたより……5
乱 鬼龍の「あるくラジオ」…6
ほのぼの川柳……8
立入川柳・穴あき川柳……8
戦争前夜抄【金子文子】⑱…8
シベリア抑留の記録⑳……12
編集後記を兼ねて……16

例会案内

7月例会
投稿締切 7月23日(木)
課題「水」 21日(火)
自由吟 3句以内
5句以内
自選句、自解筆もよろしく。

6月の川柳互選

◆課題吟「報」

一人３句以内吐
（12人の互選）

1 トランプが差別を謝罪嘘だろう　ダン吉
1 辺野古基地「工事あるき」で報い誰　宏
2 報道の偏り選ぶＮＨＫ　林
2 報連相全くなしで突っ走る　北の山
2 原資には政調費一億五千万　立東爺
3 三割もまだ支持率がありますか　ダン吉
3 報連相 できないしない 自民党　高坊
3 なんやかやコロナに被せ切り下げる　白眞弓
3 報告をします安倍さん真っ裸　ダン吉
3 報われぬ人に届けと太郎の頑張り　未知子
4 コロナ禍で増税ありて格差大　宏
4 体制が崩れる警報また鳴らす　徹乗
4 以前より 安倍の失態言う 報道　高坊

5 恩に報いた夫婦がまたも牢屋入り　徹乗
5 吉報が 届け都知事の 戦から　高坊
6 延命に　情報操作　潜り抜け　広助
6 情報を裏で操作す安倍の友　徹乗
6 報われぬ骨壺靖国で並び立ち　大峰
6 報償の椅子を取られて拘置所へ　大峰
7 報復の連鎖を嗤う神仏　亀公子
7 報国の名で侵略やって来た　大峰
7 文明の進歩が喰らう負の報い　亀公子
7 県議選オキナワ民意報いあれ　宏
8 取り調べまずスマホの位置情報　白眞弓
9 イージスのニュース辺野古の胸を刺す　白眞弓
10 報告書忖度ないので廃止する　立東爺
10 平和こそ　果報は寝ずに　守り抜く　広助
11 黒塗りがやたら目につく報告書　林
11 機密費は　報告無用　闇の中　広助
12 恥を知れ見よ黒塗りの報告書　亀公子

13 下々に報われぬ日々強いる国　林

14 **報恩の行脚現金配り旅**　**立東爺**

◆自由吟（互選）

一人5句以内吐（12人の互選）

1 敗戦に反抗期だけ遺し　大峰

1 総裁選談義三密忘れアベ幹部　未知子

1 支持率がまだ一桁になりません　立東爺

1 今日も又むしり取られるカレンダー　大峰

1 肋骨を撫でて入る終い風呂　大峰

1 二兎追いし秋田山口一兎も得ず　宏

2 滋さん娘に会えず天国へ　宏

2 夾竹桃咲きヒロシマに夏が来る　ダン吉

2 被爆国祈り八月十五日　広助

2 中抜きのウイルスはびこる国づくり　林

3 失政で日常壊し母子泣かす　林

3 わしゃ知らぬ救いの神だ会期切れ　北の山

3 今国会皆んなの声で悪法封じ　高坊

3 二桁の支持率支える応援団　立東爺

3 恐慌の入口で晋三が掴む十兆円　大峰

3 やっときた電通悪事を公に　高坊

4 アベノマスクうちには利権なしできた　白眞弓

4 二百兆円の税の荷馬車を引くあした　亀公子

4 丸腰で平和を望む終戦日　広助

4 十万とマスク列島夏が来る　ダン吉

4 コロナの戦矢面に立つのは弱者　亀公子

4 九条が平和の叫び受け止める　広助

4 基地負担軽減言うならオウムでも　未知子

4 病院に閑古鳥鳴いて崩壊す　白眞弓

5 我が知事は頭も口も軽くなり　未知子

5 視界ゼロ安倍丸ついに座礁船　北の山

5 選挙前〝安倍さんからです〟配り旅　立東爺

5 この国の未来図見える都知事選　高坊

5 よちよちと歩くマスクのこの異常　白眞弓
5 カワイ夫婦議員に居座るアベ倣い　宏
5 報道へブレーキ掛ける官邸よ　宏
5 久しぶり挨拶しつつ後ずさる　白眞弓
5 拉致成果全くないまま父が逝く　徹乗
6 通学路通せんぼしたアベノミス　林
6 コロナ禍も今や確かに人災だ　ダン吉
6 禁断の支持率調査に手を入れる　立東爺
6 追い詰められ不起訴で逃げる鞄持ち　大峰
6 ああ空し説明責任果たします　北の山
7 声上げる事の大事さ知る今国会　高坊
7 耳に胼胝(タコ)今日も私が責任者　ダン吉
7 アベノマスク一人着けてるあぁ虚(むな)し　徹乗
7 アラートを使い選挙の前支度　高坊
7 人口減むかし戦争いまコロナ　白眞弓
7 コロナ不況裏で濡れ手に粟の怪　亀公子
7 トンネル一社抜けると「電通」に　宏
8 愚かな首相支持した付けが今や来る　徹乗
8 富める者歌うは新自由主義の歌　林
8 国会を止めて暴君晴れを待つ　林
8 シロアリがコロナ禍利権またも群れ　徹乗
9 井戸を掘る水一滴が灯を点す　亀公子
9 責任をとるまで総理やめません　ダン吉
10 丁寧な嘘の連鎖がまだ続く　立東爺
10 国会を急いで閉じて逃げまくる　徹乗
11 日雇いに死ねと言うのか自粛令　亀公子
11 手も足もあって平和を碑に誓う　広助
12 **同族に国境がある世界地図**　**広助**

選考（互選）のルール紹介

課題吟、自由吟それぞれ、推薦句を三句（2点）、準推薦句（1点）を総数の半数以下を目途に選考しています。

自選句

◆自選句　中野 林

税の流用で票の爆買い
電通が手刀を切るコロナ益
埋め立ての我慢は四日ほぼ病気
幕引くも疑惑大きく隠せない
危うきに近寄りがたく国会止め
国会を止めて疑惑の幕を引く
コロナ禍を福となしてる中抜き策
急を告げ途上国へ落ちてゆく
冷たいね国が持たない給食費
お金には色はつかぬが手垢染み
日本の平和を守るにアベが癌

◆自選句　前田大峰

ボールペンより先に取り替える非正規
検察庁は拘置所へ持って行き
汚染世論に薄めて海へ捨て

おたより

◆遠田亀公子さんより

あらゆる会議や催しが中止か延期という四カ月。やっとそれが解除されたものの、調子が出ません。時間があればいい句も出来るはずでしたが、いかんせん頭の方はサッパリ言うことをききません。年ですかねえ～。

◆岩佐ダン吉さん（大阪）より

《前月のP7、私の2行目は誌上句会です。》

通常の句会がほぼ「誌上句会」に替わりましたが、この作業は意外に大変。選者とのやりとり、嵩む通信費、切手の処理……、そんな中でやってくる各地の市民川柳大会の秋、多くが市からも文

化行事で会場は確保できるものの〝三密〟のクリアーは絶望的です。コロナ禍は言論、表現の自由の敵でもありますね。

YouTubeで聴ける乱 鬼龍さんの川柳人生
～「あるくラジオ」Walking Radeo ～

YouTubeで検索 →【あるくラジオ　乱鬼龍】
https://www.youtube.com/watch?v=2qEG_VwwCzk

川柳で時代を撃つ乱 鬼龍さんをゲストに迎えました。乱さんはレイバーネット川柳班の中心です。句会があれば投句も選評も、デモがあればむしろ旗に川柳を書いて登場、座談では駄洒落連発で哄笑を呼ぶ。肩怒らさず飄々と笑いを誘うが如くの風姿は生きた川柳子でしょう。新型コロナウイルスに奔走されるこの時代を生き抜くために、嘘と虚飾で塗り固めた政権に一矢報いるために、民衆芸術の雄〈川柳〉ここにあります。半生を川柳と生きる乱 鬼龍さんの語りです。ぜひご視聴を。

乱 鬼龍さんの最近句

フトコロも命も軽いなあ友よ
アマビエも安倍の無能にあきれはて
小池百合子こそがアラートだと思い
東京五輪もはや死に体ゴリンジュウ
電通もパソナもうまい汁を吸い

10兆円よってたかって喰うつもり
マイナンバーうまい話に御用心
忖度と同調圧力国亡ぶ

視聴者からの反応紹介

●はっきり言って面白かった

今日は我が川柳班の若手、乱鬼龍がゲストで「あるくラジオ」があるというので、川柳班員として、聞きました。はっきり言って、なかなかいい内容でした。というか、面白かったですよ。川柳を通して、乱さんのファンの様子もわかったし、紹介された句もなかなかよかった。（笠原眞弓）

労働者のレイバーネットの放送案内から編集しました。【編集子】

●大人のセンスで、内容が深くてタイムリー

私も、あるくラジオききました。乱さんとは10？20年の古い付き合いでも、知らないことといっぱいでした。レイバーネットはラジオもテレビも身近な感覚（素朴というか）なのに、大人のセンスで、内容が深くてタイムリー。既存メディアの番組より、断然いいです。（高橋）

●死刑囚の川柳にグッときた

佐々木さん（と志真さん）がインタビューする「あるくラジオ」、今回は川柳家の乱さんでした。乱さんの語り、すごくおもしろく聴きました。最後のところで松原さんがした乱さんへの質問。乱さんの返事に感動しました。また死刑囚のあの川柳にグッときました。皆さん、ぜひ聴いてください。（根津公子）

ほのぼの川柳

クワガタをもらって嬉しいわが息子　神田　鯛
アミを持ち田んぼでヒルを捕まえる　神田　鯛
ばあちゃんち虫や亀やで動物園　神田　鯛
はやりものブームが去るとゴミとなり　寿賀子
おばあちゃん大事に世話して寝たきりに　東　爺
太り方ホーム通いのステイタス　東　爺

立入（たちいり）川柳

（言葉を織り込む）

あれ以来調子かなり安定す

（鳥＝ライチョウ、カナリアを織り込む）

穴あき川柳

（□に言葉を入れる）

古着着て□□□□□□ものと無理に言う

答え＝ヴィンテージ

作・辻寿賀子（東京）

「戦争前夜抄」⑱

金子文子、自殺への疑問 ②

周　立東爺

先月に紹介した金子文子と朴烈二人の写真であるが、この写真は逮捕された後、予審取調室で撮られている。文子の死後、この写真を載せた怪文書が市中に出回って騒動に拍車をかけた。撮影したのは二人を取り調べていた立松判事である。この写真が大逆犯人に対するあるまじき態度だと非難、「司法権の紊乱」と右翼は国会を舞台に攻撃。怪文書の中で、文子の自殺についても書かれている。まったくの部外者が書いたものと思われない。以下紹介する。（松本清張「昭和史発掘」より）

……「自殺した文子の死体は、一たん刑務所墓地に仮埋葬され、ようやく一週間になって山

梨県下より来所した文子の母キクに引き渡されたということだが、発掘死体はまったく腐敗糜爛して悪臭鼻をつき、惨状目もあてられず、男女の性別さえわからなかった。

そのため母キクは死因に疑いを起こして引き取りをこばみ、さらに解剖を刑務所長に迫ったが、たくみに慰撫されやむなく表面のみ納得し、火葬に付したということである。

ちょっとしたことでも思想的発表をすることを常とした文子が、自殺するにあたってなんら遺書もなく、死の直前まで態度の変わらなかったものが突然自殺する理由はない。

ここに刑務所側が文子の妊娠発覚の事実をおそれ、ひそかにほどこした堕胎手術が誤り、死に至らしめた（卵巣穿刺法の失敗と噂されている）という憶測が事実と思われるゆえんである。これ明らかに恩命によって再生した重大被告の監視に粗漏があったことで、ひいては、上の御仁徳を冒涜するものであり、かりに発表のように文子が自殺したとするも、かかる不謹慎の被告に減刑を奏請した江本司法大臣と若槻首相は、ともにその責を明らかにして、断然挂冠（かいかん）すべきである。」……

この清張の「昭和史発掘」で文子が妊娠していたことを知った。真相は歴史の闇に埋もれてしまって文子の思いはわからないが、朴烈との愛の結晶である。はたして自殺するだろうか？　担当検事の変死や大逆事件、朝鮮人大虐殺、甘粕事件などを知るにつけ、何があってもおかしくないと思う。

金子文子の遺した『何が私をこうさせたか』を読んでみて彼女の多感で言葉を操る才能に感服する。裁判調書の手記として書かれたものだが、死を覚悟して二十三年の生涯を綴った『何が私をこうさせたか』は見事な文学作品である。

〝あとがき〟に文子は次のように記している。

「間もなく私は、この世から私の存在をかき消されるであろう。しかし一切の現象は現象としては滅しても永遠の実在の中には存続するものと私は思って居る。

私は今平静な冷やかな心でこの粗雑な記録の筆を擱く。私の愛するすべてのものの上に祝福あれ！」

確かに、文子は『何が私をこうさせたか』を通して今も生きている。

金子文子の一生をまとめた女性作家がいる。瀬戸内晴美（瀬戸内寂聴の本名）である。作品は『余白の春』。この中では金子文子に光を当てたが、もう一人の女性も紹介している。伊藤野依（のえ）である。

関東大震災のとき亀戸警察では地獄のような朝鮮人大量殺人が行われていた。また署の中で憲兵が指揮して労働組合運動活動家十数人、無政府主義者も多数殺害している。甘粕事件と呼ばれ、教科書にも必ず登場する。この時犠牲になった大杉栄や夫人・伊藤野依の最期も描写している。瀬戸内は伊藤野依（のえ）の短い生涯を「美は乱調にあり」で伝記としてまとめている。伊藤野枝は評論を書き、平塚らいてふの主宰する「青鞜」の後継者であった。

金子文子は和歌も詠み、瀬戸内は「金子文子和歌集」をまとめている。『余白の春』から抜粋して以下に紹介します。獄中の鶴彬の思いと重なる。

意外にも母が来たりき郷里から
　獄舎に暮す我を訪ねて

逢ひたるはたまさかなりき六年目に
　つくづくと見し母の顔かな

窓がらす外して写す帯のさま
若き女囚の
出廷の朝。

ひと夜ならでいついつまでも覚むるなと
希ひていぬる
此頃の我。

電燈のまたたきつつも消え行くを
見れば我が胸
あやしく慄ふ。

ゆあみする女囚の肌のふくらみに
啼そらしぬ
悩ましさ覚えて。

一度は捨てし世なれど
文見れば
胸に覚ゆる淡き哀しみ。

ホイットマンの詩集披けば
クローバの押葉出でたり
葉数かぞふな。

四つ葉クローバの手触り優しその心
誰が心とぞ思ひなすべき。

上野山
さんまい橋に凭り槌り
夕刊を売りし頃もありしが。

籠かたげて
夜の道傍にたたずみし
若き女は今獄にあり。

ゐねむりつ、ゐねむりつなほ鈴振りし
五とせ前の
心哀しき。

滝白く松緑なる木曽山の

金子文子を描いた
『余白の春』瀬戸内晴美著

すがたちらつく
獄のまぼろし。

霊と肉の
二つの心のいさかひに
持つ事悲し今の我が身は。

去年（こぞ）の今日我を見舞ひし友二人
獄に逝きて今はゐまさず

ぐんぐんと生ひ育ちゆく我が友と
訣（わか）るゝ日近し
我のかなしみ。

友の服は破れ
我に白き襟番号
哀しき集（つど）ひよ、予審廷のひる。

◆文子の歌を会報の
付録に付けます。

伊藤野依を描いた
『美は乱調にあり』
瀬戸内晴美著

シベリア抑留の記録 ⑳

「在ソ三年　生と死のドラマ」

故・秋山茂氏の遺稿より

囚われの身で抑留三年。精神力が如何に無力かを知り、数々の日本人の醜態を見てきた。帰還船を待つ間、さまざまの事が胸に去来する。ナホトカに到着してから五日目。「おお、日本の船だ、日本の船だ！」ナホトカの岸壁に横付けになっている。ペンキのはげた痛ましい信洋丸であった。過ぎし抑留三年間の数々が鮮やかに甦ってくる。すぐに妻子への思いに変わる。「五人は無事に日本に還れたのか？　いよいよ乗船である。

「こいつら日本に還へすな！」
「水葬にして了へ！」

斯うして三年間の緊張が一度にほぐれたかのように、われわれは思い思いの考えを抱き乍ら力なく各

人各様の姿勢で身体を横たえていた。然し暫くして力強いぼーっという笛と出港合図のドラの音が聞こえたと思うと船は静かに岸壁をはなれたようだが今更ら未練のあるソ連でもないし私は瞑想しながら昔なつかしい出港風景などを画き続けた。スクリューの回転から想像するに船足は可成り速度を増したらしい。再び鳴る気笛。どおやら湾口を外洋に出るらしい。この時、漸く重い脚を甲板に運んで見れば船は今ナホトカ港外にでるところである。遠くにシベリヤの山々が見へ信洋丸に追尾していた警備艇も引き返し風だけがやけに強く耳朶に当たって冷たい。もう間もなく公海に出るだろう。渺々たる海の波のうねりも一段と大きくなったようである。私は又元の船倉に戻るとごろりと横になった。

どの位眠っただろうか？　騒々しいあたりの気配に目を覚ました。船は既にソ連の領海をはなれ公海上を一路舞鶴に向かって走り続けエンジンの響きも心地がよい。

「おいおい！　甲板へ上がって見ろよ。面白いぞ」

「なんだなんだ？」

口々に話し合い乍ら大勢の人が馳せ上がって行くのにつられ私も人々の後に従って薄暗い船倉からまぶしい程明るい甲板に足を踏み出した途端、冷たい強風に思わず首を縮めたが黒山のような人集まりだ。人の肩越しに内を覗いた瞬間はっと息を呑んだ。

今、数人の者が真ん中に引き出され、周りの何拾名、否何百人かの者が口々に何かわめき立てているが、夫等の声は強風に吹き千切られて後方の波間に消へてよく分からないが、どうやらシベリヤで我が物顔でのさばっていた左翼的グループ即ちアクチーブに対する糾弾らしい。一人の如何にも熱血漢といったタイプの若い男が進み出て中央に引き控えられた一人ひとりの言動に就いて尋問しはじめた。

「同胞を殺し、同胞を売り、、祖国に反抗し続け

た憎むべき奴等！」とか、「赤大根の手先となって我々を苦しめた奴等！」など、彼等の行状を暴露する鋭い言葉が出るたびに周囲からおおきな喊声と怒号や拍手が沸くのは永い間、屈従を強いられた抑留者の鬱憤である。

「そうだ、そうだ。こいつら日本に還へすな！」

「水葬にして了へ！」

「殺って了へ！」

「殴打殴打！　制裁！」

騒然とした中でこんな野次が飛び交ううちにだんだん空気が殺伐で険悪な様相になったと思う間もなく、凄い乱打が彼等の顔や頭にところきらわず雨のようにそそがれ、みるみるのうちに衣服は裂け顔は紫色に腫れ上がり血潮が飛び散って甲板の上は凄惨な修羅場となったけれ共、さすがに彼等は一人として抗辨する者もなく無言のまま打たれ蹴られ罵られている。

右と左の対決！　在ソ中、反動分子の烙印を押されて終始辛苦の底に生き続けた右翼的思想をほこりとした男達の憤りが爆発したのである。見たところ若い陸士出身の将校が中心のようである。

船員達も人垣の向こうから一寸覗いては、

「どの船でもあることですよ」

と笑い乍らさり気なく云って立ち去って行く。

われわれより以前の引き揚げ船では水葬になった者もあるとか。

同じ日本人同士が！　憎しみを捨てられないものだろうか。捨てられぬということは私情があり、私怨に通じているからだろう。

人間とはなんと愚かしいものだろう。私は在ソ中ある地方人の善良そうな老人から、

「私は貴方達日本人に対し決して日露戦争の仇だとは思わない」という言葉を聞いたが、これは特例であると思った。というのは一般に日露戦争後、捕

虜として日本内地に抑留された経験をもつ老人達との何気ない会話のうちに「何時の日か日本人を捕虜として」という潜在意識のあることを伺い知ることがあったからである。

わが国は無謀な第二次世界大戦に敗れ米英蘭中国などはとにかくソ連邦に関する限り、終戦直前の一九四五年（昭和二十年）八月九日一方的に戦争を仕掛け約七十万人の日本人を長期に亘って抑留酷使し、その間、五万有余の生命が失われたのである。若し抑留された人達の心底に「何時の日か露助を捕虜に」という報復的な意図が多少でもあるとしたら人類共同の目的である世界平和も一条の夢でしかない。

祖国日本は戦に敗れたが私は人間として、ソ連人に敗れたとは思わない。われわれは日本人である前に、人間としてという高度な次元で判断し行動することが次代に求められているように思われ、そこに戦争のない本当の平和が生まれるということを学んだ。

不快になった私は甲板の争いをよそに独り船倉に戻り、又ごろりと横になったが、大方の者が甲板上に出拂ったため広い船倉には、ところどころに人が居るだけで何か寒々とした空気が漂っていた。

（つづく）

この連載も、次回で秋山氏の原稿が終わります。最後の21回目には、淡々と書かれた「赤い覇道」「いま振り返って思う」の項で、平和への思いが綴られています。

また、長女の坂本冨沙子さんに感想をお願いしていますのでお待ち下さい。

この抑留記を読まれた感想などお寄せ下さい。

（周 立東爺）

編集後記を兼ねて

▼東京のコロナ感染が再拡大している真っ最中の知事選。公約「六つのゼロ」の達成ゼロでも小池百合子氏が圧勝。不思議である。政府も、経済優先で「GoToキャンペーン」を実行。ウイルスを全国に拡散させるつもりか！　側近にそれを諫める人間はいないのか！▼思い出すのは政治学者ハンナ・アーレント。ユダヤ人大虐殺という未曾有の殺人を行った首謀者アイヒマンは、「上から言われたことをしただけ」と裁判で証言した。考えることを放棄することで誰もがアイヒマンになりうることを指摘したアーレント。▼これはいまの日本でもある。数々の不正をやってのけた政府官僚。上からの命令にただ従った平凡な人間だったのかもしれない。だから罪の意識がない。▼秋山茂氏のソ連抑留の手記は次号で完結です。後続企画を考慮中。▼「戦争前夜抄」は金子文子に続き、大逆事件の犠牲者、伊藤野依です。（編集＝周立東爺）

7月例会ご案内（毎月第4木曜日）

◆例会　7月23日（木）　◆投稿〆切：21日（火）
◆課題「水」3句以内　◆自由吟：5句以内
◆自選吟、連作、エッセイ、川柳論、ご意見なども お願いします。川柳に関する資料などもご紹介下さい。
◆句報を持参下さい。例会で話し合います。
●投稿 FAX（076）254-0762　郵送は下段住所へ。
●メールアドレスは下段に。

「和川柳社」会報 会員募集しています！

同　　人：4000円/年
投句/購読：2000円/年
★会報の他に、関連資料などもお送りします。

和 川 柳 社　〒920-0335 金沢市金石東2丁目15--30（渡辺 寛）
電話 FAX：076-254-0762　PC-mail：kananabe@popolo.org
携帯：090-9445-1302　携帯 mail：kan-wata@i.softbank.jp
振込先：北國銀行中央市場支店　#191 普通 640「和川柳社」

発送に協力いただいています。▼《食育のグリーンノート&土の音工房《オカリナ制作》・上村 彰》